



# 市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎ 36-7117

## 今月のテーマ 「口癖が人材を育てる」 職員の人材育成について

私は度々、「市役所は究極のサービス業であり、市内最大の投資会社である」と表現し、「10年先の島田を常に考えること。そのために『今何を選択するか』が我々に課せられた責務である」とよく職員に話します。さらに、幹部職員には「市の経営者という立場を自覚すること」と繰り返し話し、「市役所は島田のエンジン」「現場は原点」「島田らしさを追求しよう」とも口癖のように言っています。オピニオンリーダーとして価値観や考え方を繰り返し伝えることで、私の行政経営理念が職員に浸透し、各々の仕事に向き合う向上心につながればと願っています。

さて、先日の新聞報道に「加速する人口減 自治体の『廃止』現実味」（2018年5月4日付 読売新聞朝刊3面）とありました。2040年に消滅する可能性があると考えられた896の自治体（日本創成会議 増田レポートより）のうち、約8割の自治体で想定以上に人口減が進んでいるという記事でした。県の将来推計では、今後30年間に65%以上も人口が減ると予測されるまちもあり、当市は23%減となっていました。では、こうした事態にどう立ち向かえばよいのでしょうか。

自治体の垣根を越えて、近隣自治体で行政サービスを役割分担する「連携中枢都市圏」の形成をはじめ、ICTをうまく活用した広域連携などは、既に動き出しています。さらに大切なのは、次世代を担う人材の育成。限られた経営資源（いわゆるヒト・モノ・カネ・情報）をこれまで以上に有効活用し、「稼ぐ力」を生み出し、地域の活力を創造する人材を官民挙げて育てていくことが、当市の喫緊の課題であると私は考えています。

当市では、平成28年度から人事評価制度を本格導入し、職員の階層別の基本的な役割（業績）と、必要とされる主な能力を評価シートにおいて明確に示し、常にこれを意識させることで人材育成に努めています。また、研修体制も充実を図っており、ユニークな研修としては、定年退職を間近に控えた部長が講師となり、後輩たちに経験・スキル・時代の移り変わりなどを伝える「しまだトラッド継承講座」や、多分野の著名人を迎えて時代のトレンドを読み解く「トレンド・コンパス」などを実施しています。そのほか、内閣府、国土交通省、早稲田大学マニフェスト研究所、自治大学校、官民連携プロフェッショナルスクールなどにも職員を派遣し、国・県や他市との人事交流も実施しています。



部長が講師を務める「しまだトラッド」

これまで私たちが「市民本位」として取り組んできた、市民ニーズを聞いてそれを市政に反映していただくだけの市政運営は、単なる御用聞きに留まっていたのではないのでしょうか。本当の意味での「市民本位」の市政運営とは、市民に寄り添うのは当然のこと、「市民自身もまだ気が付いていない潜在的なニーズや課題を見極め、それらの解決策を模索しながら新しいサービスを創造していくこと」だと考えます。それを実践できる職員を育てることが、市長である私の使命であり、「信頼される市役所づくり」にもつながると考えています。

## みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などをご紹介します。

当社が、（一社）住まい教育推進協会主催の「全国古民家再生協会全国大会」古民家再生部門で、最優秀林野庁長官賞を受賞しました。「子どもたちに伝えたい家」のタイトルで、築80年の古民家を現代でも使いやすいように再生。残された家財道具をリサイクルしたり、足りない所には同じ時代の資材を使用したりするなど、「人・まち・自然」の環境に配慮した空間づくりを目指しました。

子育て世代のご夫婦も、古さの中にある「良さ」に満足さ

れているとのこと。人口減少や空き家問題が取りざたされる中、今回の受賞が、若い世代にとって古民家の利活用を考えるきっかけになれば幸いです。



かたかわのりゆき  
（片川工務店 代表 片川範之さん・写真中央）